

# 化学兵器禁止機構-国連報告の、シリア犯行決論をモスクワ が咎める

国連報告がシリア犯行を主張するのは「欠陥だらけで理屈に合わない」

【訳者注】シリアでの化学兵器使用者が誰であるかについて、米露が単に押し問答をしているのかと思えるが、そうではない。ロシア（-シリア）側はどんなに理不尽なことを言われても、理性的に理路整然と反論している。そこを読んでいただきたい。これは2014年7月のウクライナでの、マレーシア機撃墜のときでも、同じだった。ロシア側が、きちんと観測調査データを米側に出しても、米はこれを無視し質問に答えなかった。

最近、Vanessa Beeley という女性記者の、シリア情勢を報告するビデオを見た。シリアでの米側による、「子供を宣伝に使った子供殺し」、悪逆非道の偽善者 White Helmets、それに良心皆無のメディアを使った世界騙しを、彼女は繰り返し強調して **despicable**（卑劣な、見下げ果てた）と呼んだ。これはペド犯罪、テロ犯罪、ニセ旗犯罪、人民への犯罪、国連での徒党犯罪を、ひと括りにした最適の言葉である。この者たちを「**デスピカブル、卑劣漢ども！**」と呼ぶのに何の躊躇もいらない。

RT (Russia Today)

October 28, 2017



ロシア外務省前面

ロシア外務省は、OPCW-UN（化学兵器禁止機構 - 国連）の合同調査団が最近、発表した報

告書の調査方法が、重大な欠陥をもっていることを、すでに発見していると言っている——と外務次官セルゲイ・リャブコフは、金曜日、RIA に語った。

国連安保理で木曜日に回覧されたこの報告書の結論は、「大きな疑問」を提起するものだ、とリャブコフは言い、この調査結果は、「偏見をもつソース」から得られた、同じ古い証拠と証言に基づくものだと強調した。 <https://ria.ru/syria/20171027/1507659935.html>

モスクワが更にこの結論に疑問を呈するのは、調査団が「化学兵器禁止に関する慣習である、具体的証拠の連続的な収集と蓄積の要求に、従っていない」からである。

「これらすべてのもつ論理的一貫性の欠如、内部矛盾は、ざっと目を通しただけで明らかだ」と、この外交官は付言した。

Khan Shaykhun の化学攻撃は、2017 年 4 月 4 日に起こったもので、それは、アルヌスラ・フロント・テロ集団としてよりよく知られる、Tahir al-Sham の支配下にあった Idib 行政区の一部である。74~100 人の市民が殺されたといわれる、サリン・ガスの放出は、シリア空軍の反テロ作戦がこの町で行われた後で起こった。ダマスカス政府は、通常兵器のみを使ってテロリストを攻撃したと言っている。

調査団は、安全の心配を理由に、それが起こった場所を決して訪問しなかった。そしてその理由は「現場の維持が信用できない、なぜなら、サリンが発生したクレーターは、事件後に掻き回されており、やがてコンクリートで埋められたからだ」と言った。

にもかかわらず、その報告書に合同調査団は、「我々は、シリア・アラブ共和国が、2017 年 4 月 4 日のハン・シャイフンのサリン放出の、犯行者であると確信している」と言っている。

<https://drive.google.com/file/d/0ByLPNZ-eSjJdcGZUb0hqalFOa0hhdEZ3W1BvZmRnajFRV3pr/view>

ロシア外務省は金曜日、この報告の内容を批判して、合同調査団の調査結果は、ロシアの専門家の導き出した結論を無視していると言った。

「この報告書を通読して明らかなことは、ロシアの専門家の結論と見解が、調査団の要請に基づいて提出されたにもかかわらず、全く無視されていることである。その上それは、我々の質問にまったく答えていない」と外務省は言っている。

[http://www.mid.ru/ru/foreign\\_policy/news/-/asset\\_publisher/cKNonkJE02Bw/content/id/2924578](http://www.mid.ru/ru/foreign_policy/news/-/asset_publisher/cKNonkJE02Bw/content/id/2924578)

関連記事：“多くの欠陥と省略”が、化学兵器監視団のイディブ事件報告を損なっている——ロシア OPCW 代表より RT へ <https://www.rt.com/news/395417-opcw-syria-chemical-gaps-omissions/>

別の意見書において、外務省は、シリア政府が国連チームに対して提出した要求——実験結果のみならず、化学兵器禁止機構の実験室に保存された現実のサンプルをも、見せてほしいという繰り返された要求——が、何カ月もの交渉にもかかわらず、なぜ、一部しか満たされていないのかを問題にした。[http://www.mid.ru/ru/foreign\\_policy/news/-/asset\\_publisher/cKNonkJE02Bw/content/id/2924603](http://www.mid.ru/ru/foreign_policy/news/-/asset_publisher/cKNonkJE02Bw/content/id/2924603)

実験結果は送られてきたが、その場所で採取されたとされる生化学サンプルは、決してダマスカスに送られてこなかった。

「それとは別に、OPCW の技術事務官は、この事件の現場でイギリス人とフランス人によって採取されたとされるサンプルを、受け取ったか、という質問に答えることを、常に避けている。[化学兵器禁止機構の] 慣習では、そのようなサンプルは、それが採取された国に提出することになっているのだ」と、この声明は述べている。

このような手順の不透明さは、OPCW メンバーとしてのシリアの権利を侵害するだけでなく、国連と OPCW 調査団の公平さについて、重大な問題を投げかけるものだ、とロシア外務省は言った。

「ただ一つの結論がある——アメリカや、それに精神構造の似た者たちが、シリアの“化学兵器書類”に関するこのようなやり方を、エスカレートさせていくにつれて、国連安保理や化学兵器禁止機構の、シリアに対する立場が、ますます露骨に“ダブル・スタンダード”になっていくことだ」と、この声明は付言している。

ダマスカス政府はまた、この報告の調査結果を拒否し、それは明らかに「アメリカと西側諸国の、シリアの主権にもっと政治的圧力かけ、脅迫せよという指図に、従ったことからきたものだ」と、答めている。

「シリアは、この報告書にも、前の報告書にも含まれる、シリアに対する直接・間接の言いがかりを厳しく非難するものである。なぜなら、それらはハン・シャイフンで起こったことについて、真実を偽り、すべての正しい情報を捻じ曲げるものだからである。」

モスクワは、来週、この報告を注意深く調べたのち、「より詳しい分析」を発表すると言った。同省は、11月16日に解散する合同調査団の現在の命令の、ありうる延長に対する返答を出す約束をした。

**関連記事：ロシアは、シリアの化学兵器調査を新たに始めるという安保理決議を拒否**

<https://www.rt.com/news/407641-russia-veto-chemical-un-resolution/>

ロシアは水曜日、OPCW-UN ミッションの延長に関する安保理の決議案に反対し、この命令の延長は、調査団の報告と、チームの任務実行、独立性、それに客観性の評価の後でのみ、決定されるべきものだと強調した。

一方、西側諸国はこの報告の結論を歓迎している。調査結果は即座に、米高官によって、アサド大統領のものとする犯罪を確認する、固い、“公平な”証明だとして称賛された。

「しばしば私たちは、アサド政権による化学兵器使用の、独立した確認を見ることがある」と、米国連大使のニッキ・ヘイリーは声明で言った。

イギリスは金曜日、国連安保理が、シリアに制裁をかけることを求めた：——「今、健全な国際的反応が、これらの者に、ハン・シャイフン攻撃の責任を負わせるのに、不可欠である。…これらの調査結果を根拠に行動し、正義を行う責任が、いま安保理にかかっている」と、英大使 Matthew Rycroft は記者団に言った。

しかし中国の反応は、もっと用心深いもののように見えた：——「我々は、いかなる調査の結論であろうと、堅固で信頼できる証拠に基づき、専門家の見解、客観主義、それに正義の原則に従うこと、そして歴史の検証に耐えるものであることを希望する」と、外務省報道官 ゲン・シュアンは、金曜日、報道陣に話した。